

平成 28 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ブ イ キ ュ ー ブ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 間 下 直 晃
(コード番号：3681 東証第一部)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 大 川 成 儀
(TEL. 03-5768-3111)

**営業外費用（為替差損）・特別損失の計上及び業績予想の修正、
並びに役員報酬の減額に関するお知らせ**

当社は、平成 28 年 12 月期第 3 四半期の連結決算において営業外費用（為替差損）を計上し、また、平成 28 年 12 月期の連結決算において特別損失の計上を見込むとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 28 年 7 月 1 日公表の平成 28 年 12 月期連結業績予想を修正しましたので、下記の通り、お知らせいたします。

あわせて、役員報酬の減額を決定しましたので、お知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

為替相場の急激な変動により、平成 28 年 12 月期第 3 四半期連結会計期間（平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）において、為替差損 96,811 千円を営業外費用に計上し、その結果、平成 28 年 12 月期第 3 四半期連結累計期間（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）において、為替差損 482,357 千円を営業外費用に計上しております。

なお、上記の金額は、主として、平成 28 年 12 月期第 3 四半期末時点の当社海外連結子会社への外貨建貸付金を同日の為替相場で評価したことで発生した評価損であり、この評価損による現金支出は生じません。主に影響する為替レートは、シンガポールドルと US ドルに関してであり、平成 28 年 12 月期第 2 四半期連結会計期間末において、1 シンガポールドル=76.43 円、1 US ドル=102.96 円でしたが、平成 28 年 12 月期第 3 四半期連結会計期間末において、1 シンガポールドル=74.03 円、1 US ドル=101.12 円となりました。

2. 特別損失の計上

当社サービスの 1 つ、課金型のライブ配信マーケットプレイス「V-CUBE マーケット」は、インターネットを通じて学ぶことができる機会と環境へのニーズの高まりを背景に、平成 26 年より提供し、ライトユースから大規模配信まで様々なビジネスに活用されています。

当該サービス提供開始以来、サービス拡大に向け、開発投資を重ね改良を続けてきましたが、当社グループサービスの選択と集中を進めている中で、当該サービスを継続すべきでない判断し、当該サービスの減損処理を行うことを決定しました。

これにより、平成 28 年 12 月期の連結決算において、減損損失 92,176 千円を特別損失に計上する予定です。

なお、来期以降の固定資産の償却負担が軽減され、売上原価が低減される見込みです。

3. 業績予想の修正

(1) 平成 28 年 12 月期の連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,200	444	7	△183	△9 円 48 銭
今回修正予想(B)	7,360	30	△473	△723	△37 円 38 銭
増減額(B-A)	△840	△414	△481	△540	
増減率(%)	△10.2	△93.2	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 12 月期)	6,083	348	179	93	5 円 01 銭

(注) 前回発表予想及び今回修正予想の 1 株当たり当期純利益は、平成 28 年 10 月 31 日現在の発行済株式総数(19,368,000 株)を基に算出しております。また、前期実績の 1 株当たり当期純利益は、平成 28 年 1 月 1 日付の 1 株につき 2 株の割合で実施した株式分割が前期の期首に行われたと仮定して算出したものです。

(2) 修正の理由

売上高は、主に以下の理由により、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

(以下の () 内は当期下半期での影響額です。)

- ・アプライアンスの売上高は、①每期第 3 四半期にピークとなる電子黒板システムについて、当期第 3 四半期に見込んでいた案件が主に販売先の自治体から予算が得られない等の影響を受けて計画を大幅に下回り、その減少分を当期第 4 四半期で補うことが困難と判断したこと(△約 6 億円)、②テレビ会議システム「V-CUBE Box」について一部の大口見込み顧客から求められている機能の提供が遅れていることで当期第 3 四半期の計画を下回り、その減少分を当期第 4 四半期で補うことが困難と判断したこと(△約 1 億円)等により、計画を大幅に下回る見込みとなりました。なお、この「V-CUBE Box」の一部機能の提供遅れは基本技術の提供を受けている提携先の技術的課題であり、対応に時間を要してはいましたが、2016 年中に収束する見込みです。
- ・クラウド型サービスの売上高は、①国内子会社での売上高が金融機関向け等で当期第 3 四半期に計画を下回ったため、当期第 4 四半期での売上高計画を保守的に見込んだこと(△約 1 億円)、②大手企業でのクラウド型サービスの導入が進展してきている中、当期下半期に見込んでいた契約規模の大きい国内外案件の一部が獲得できない見込みとなったこと(△約 5 千万円)、③販売代理店エムキューブ株式会社向けが計画未達の見込みとなったこと(△約 2 千万円。2016 年 10 月 24 日公表の合弁契約解消と直接関係せず)、④上記の「V-CUBE Box」の販売未達に伴い、付随して見込んでいたクラウド型サービス契約が計画を下回る見込みとなったこと(△約 2 千万円)等により、計画を下回る見込みとなりました。
- ・オンプレミス型サービスの売上高は、近年続いていた減少傾向から脱却し昨年より大幅に増加する見込みであるものの、国内の金融機関向けの案件等が計画を下回ったこと等により、計画を下回る見込みとなりました(△約 1 億円)。

費用については、売上原価はアプライアンスの売上高の減少に伴う仕入減少等により大きく減少し、販売費及び一般管理費は計画をやや下回って推移する見込みです。

営業利益は、売上高の減少が費用の減少よりも大きくなる見込みとなったため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

経常利益は、営業利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加え、上記1の通り、主に当社連結海外子会社への貸付金に対する為替評価替に伴う為替差損等の営業外費用を見込んだため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加え、上記2の通り、特別損失を見込んだため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

今後については、現在取り組んでいる、コストダウン、不採算プロジェクトの撤退、当社グループサービスの選択と集中、組織体制の再構築等により、当社グループ全体の効率化及び体制強化を図り、来期以降の早期の収益拡大を目指してまいります。

<ご参考>

a. 平成28年12月期の連結業績予想（販売形態別売上高）

（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

（単位：百万円）

販売形態別売上高	平成27年 12月期	平成28年 12月期		
	実績	前回予想	今回予想	予想修正額
クラウド	3,947	5,206	5,004	△202
オンプレミス	504	794	689	△105
アプライアンス	1,218	1,704	1,026	△677
その他	413	494	639	145
合計	6,083	8,200	7,360	△840

b. 平成28年12月期の連結業績予想（地域別売上高）

（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

（単位：百万円）

地域別売上高	平成27年 12月期	平成28年 12月期		
	実績	前回予想	今回予想	予想修正額
日本	4,783	6,284	5,438	△846
中国	836	817	808	△9
その他	463	1,098	1,112	14
合計	6,083	8,200	7,360	△840

4. 役員報酬の減額

当社は、この度、平成28年12月期連結業績予想について、平成28年7月1日公表に続いて下方修正したことを真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、以下の通り、役員報酬の減額を実施いたします。

(1) 役員報酬の減額の内容

代表取締役社長：月額報酬の30%を減額

(2) 減額対象期間

平成28年12月から平成29年3月までの4ヶ月間

以上

(注) 本資料に記載しております業績予想等につきましては、現時点で得られました情報に基づき算定しております。実際の業績は、今後様々な要因により本資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。